

船室について

- 全室シャワー・トイレ・冷蔵庫完備です。
- 船室は、上段ベッド付きとなる場合がございます。指定はお受けできません。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスの一人様利用は、ご旅行代金の200%となります。D1、D2は180%です。
- A1、A2、A3、A4、B、D1クラスは、洗浄機能付きトイレを完備しています。
- C1、G、I、Mクラスの1室申し込みでは、洗浄機能付きトイレのオプション申込が可能です(有料)。
- A1、A2、A3、A4、Bクラスのフロアは、ソファベッドとしてもご利用いただけます。
- A1、A2、A3、A4クラスは船室指定が可能です(船室指定後に旅行契約を解除なさる場合、船室指定取消料として旅行代金の5%を申し受けます。ただし、90日前以降は旅行条件記載の取消料に準じます)。
- お得な年齢割もご利用ください(大人1名につき未就学児1名無料、詳しくは弊社までお問い合わせください)。
- 相部屋申し込みのお客様はシャワー、トイレ、ロッカー、その他の設備は同室者と共に共有です。
- セミシングルタイプ、フレンドリータイプは、船室内をカーテンで区切り、プライベート空間を提供するコンパクトタイプです。
- 旅行開始時13歳未満(中学生を除く)のお子様連れでの相部屋申し込みはお受けできません。
- フレンドリータイプの船室は、2段ベッドの下段指定が可能です(有料)。ベッド下のスペースは同室者との共有です。

ビザ(査証)取得について

- クルーズに必要なビザ(査証)は、弊社にて取得手続きの代行をいたします。(有料)
- 参加いただくオプションツアーによっては、ビザ取得のための追加代金や追加書類をご提出いただく場合があります。
- 本パンフレット記載のビザ取得代金は日本国籍の方の代金です。日本国籍以外の方もお気軽にお問い合わせください。

海外旅行保険への加入が必須です

ご旅行中に疾病や事故などの事態に遭遇し、思いもよらない高額な治療費用や救護費用などが発生した場合、法律上これらの費用は全てお客様個人のご負担となります。このような事態に備えるため、旅行期間のすべてがカバーされた海外旅行保険へ必ずご加入ください。海外旅行保険に加入されない場合、本旅行への参加をお断りする場合がございますので、予めご了承ください。

旅行変更費用補償特約の同時加入をおすすめします

クルーズの取消料はご出発の90日前から発生しますので、ご自身はもとより、ご家族・ご親戚の病気、事故などでご旅行をキャンセルしなければならぬ場合に備えて「旅行変更費用補償特約」に加入することをおすすめします。

海外安全情報

外務省の治安に関する海外安全情報より下記の通り危険情報が発出されておりますが、現地手配会社、関係省庁、船舶代理店などから最新情報を得て、当社が安全と確認しましたので本旅行を催行いたします。

「レベル1：十分注意してください」
香港、ポートエリザベス、ケープタウン、ウォルビスベイ、リオデジャネイロ、モンテビデオ、プエソアイルス、フンタアレナス、プエルトモン、バルパライソ、カヤオ、イースター島
尚、現地の治安および感染症など海外の安全に関する情報は、お客様自身でも確認していただきますようお願いいたします。

旅行代金一覧(単位:円)

船室クラス	バルコニー/窓	フロア	※いずれも大人お一人様旅行代金です											
			ペア (2人部屋)	相部屋可	シングル (1人部屋)	セミシングル (2人相部屋)	フレンドリー (3~4人相部屋)							
オーナズスイート		9-10	A1	15,050,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8	A2	11,400,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ペントハウススイート		9-10	A3	9,600,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8	A4	9,000,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
プレミアムスイート	バルコニー付	9-10	A3	9,600,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8	A4	9,000,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
スイート		9-10	B	7,560,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8	B	7,560,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ジュニアスイート		9-10	B	7,560,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8	B	7,560,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
バルコニーI		10-12	C1	4,900,000	○	I	9,310,000	—	—	—	—	—	—	—
		9	C2	4,760,000	○	J	9,044,000	—	—	—	—	—	—	—
バルコニーII		9-11	D1	4,000,000	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8	D2	3,920,000	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アウトサイドワイド	窓あり	9-11	D1	4,000,000	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8	D2	3,920,000	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アウトサイドビュー		9-11	D1	4,000,000	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		8	D2	3,920,000	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アウトサイドI		9-11	E	3,740,000	○	K	6,732,000	E2	3,840,000	—	—	—	—	—
		5-6	F	3,600,000	○	L	6,480,000	F2	3,700,000	F4	4名	2,880,000	—	—
アウトサイドII		9-11	F	3,600,000	○	L	6,480,000	F2	3,700,000	F4	4名	2,880,000	—	—
		5-6	F	3,600,000	○	L	6,480,000	F2	3,700,000	F4	4名	2,880,000	—	—
スタンダードインサイドI	窓なし	8-11	G	2,960,000	○	M	5,328,000	G2	3,060,000	G3	3名	2,394,000	—	—
		5-6	H	2,660,000	○	N	4,788,000	H2	2,760,000	H4	4名	2,128,000	—	—

※フレンドリータイプは、出航時75歳未満のお客様限定です

旅行条件(要旨) - 詳しい旅行条件書をお渡しいたしますので、内容をご確認のうえお申し込みください-

本旅行条件書は、旅行業法第12条の4に定める取引条件説明書面および同法第12条の5に定める契約書面の一部となります。

1. 募集型企画旅行契約

本旅行はNGOピースボートがコーディネートし、株式会社ジャパングレイス(以下「当社」といいます)が企画・実施する旅行です。本旅行に参加されるお客様は、当社と募集型企画旅行契約(以下「旅行契約」といいます)を締結することとなります。

2. 旅行のお申し込み

当社所定の旅行申込書に所定の事項を記入のうえ、申込金として旅行代金の5%にあたる金額(別紙参照)を添えてお申し込みください。当社が申込金の受領確認が出来た時点で正式なお申し込みとなります。

3. 旅行代金に含まれるもの

①旅行日程に明記した船舶の運賃 ②船内宿泊(ご請求書に記載された船室クラス)、船内イベント(一部有料あり)の代金 ③明示した食事回数の料金 ④船舶による手荷物運搬料金 ⑤添乗員の同行費

4. 旅行代金に含まれないもの(上記3項のほかに旅行代金に含まれません。その一部を以下に明示いたします。)

①オプションツアーの代金 ②船室クラス変更による追加代金 ③渡船手続費用(ビザ代・渡船手続代行手数料・予約受理费料等) ④船内のチップ ⑤ポートチャージ(港滞泊使用料等) ⑥国際観光旅客税 ⑦海外旅行保険料、電話代、飲み物代などの個人的費用 ⑧超過手荷物料金 ⑨ご自分から発着地までの交通費・宿泊費・手荷物運搬費 ⑩船舶のフューエル(燃油) サーチージ ⑪船舶に課せられるEU-ETS・FuelEU Maritime・GFI等、環境規制対応費(環境対応サーチャージ) ⑫訪問する国や自治体等により課される環境保全税・観光税・オーパーツーリズム対応乗税

5. 旅行代金のお支払い

①旅行開始日の前日から起算してさかのぼって60日目にあたる日以降の当社の定める日までに申込金を除いた旅行代金及び諸費用等をお支払いください。②お申込金は使用船舶の貸切代金の一部に使用いたします。

6. 特別補償

当社はお客様が企画旅行中に、急激かつ偶然な外来の事故により被られた一定の損害についてあらかじめ定める額の補償金および見舞金を支払います。フリートラベルの期間は、特別補償規程第2条2項に定める無事配りとなります。

7. 取消料

お客様は次に定める取消料をお支払いいただくことにより、いつでも旅行契約を解除することができます。

	取消日	取消料
	91日前まで	無料
旅行開始日の前日から起算してさかのぼって	90日前以降60日前まで	旅行代金の5%
	59日前以降29日前まで	旅行代金の50%
	28日前以降15日前まで	旅行代金の80%
	14日前以降	旅行代金の100%

本旅行の使用船舶は貸切船舶によるものであり、いかなる理由であれ、旅行開始後の船舶に係る旅行代金の払い戻しはありません。

8. その他

①クルーズにご参加の場合は、海外旅行保険にご加入されることを必須といたします。②旅行条件に定めのない事項は当社旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」によります。なお、当社約款は当社ウェブサイトよりご覧いただけます。

このパンフレット記載内容は2026年4月10日を基準としています。

別途諸費用(単位:円)

※2026年4月10日現在の金額です

チップ合計	181,440
ポートチャージ合計	61,600
ビザ取得代金合計	13,500
国際観光旅客税	3,000

- 最少催行人員:1,000名
- 船中泊
- 日本人添乗員が同行します
- 食事:朝106回、昼106回、夕106回
- 医師、看護師が乗船します
- 使用船舶:パンフィック・ワールド号(総トン数:77,441トン/全長:261.3メートル/全幅:32.25メートル/喫水:8.1メートル/乗客定員:2,419名/運航会社:シーホークコーポレーションリミテッドイंक)

旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス(観光庁長官登録旅行業 第617号)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13
www.japangrace.com

一般社団法人日本旅行業協会正会員 旅行業公正取引協議会会員

振込口座 口座名義は「株式会社ジャパングレイス」	三菱UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1211859	三井住友銀行 高田馬場支店 普通 9103064	みずほ銀行 高田馬場支店 普通 1991082
-----------------------------	---------------------------------	--------------------------------	-------------------------------

Coordinated by ピースボート 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1
TEL: 03-3363-7561 / FAX: 03-3363-7562 www.peaceboat.org

PHOTO: PEACEBOAT、職員美穂、上野雅文、片岡和志、千賀健史、中村克利、中村亮、松田咲希、水本俊也、桃井和馬、吉田タイスケ、ソーラグッド株式会社、Adobe Stock、Getty Images、shutterstock.com



2030年までに日本のクルーズ人口100万人の達成に向けたキャンペーンに参加しています。

お申し込み・ご相談は **0570-030-617**

9:00-17:00(定休:土日祝)
通話料はお客様負担となります

営業所のご案内 (株)ジャパングレイス本社営業所
本店の期はご予約をお願いたします
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-32-13マリンビル2F
FAX: 03-6287-3083(日曜休業)

※ 総合旅行業務取扱管理者は、お客様の旅行を取り扱う窓あき窓の取引に関する責任者です。
この旅行契約に際し、担当者からの説明にご不明な点がなければ、ご遠慮なく上記の総合旅行業務取扱管理者にお尋ねください。



【プライバシーポリシー】
株式会社ジャパングレイスでは、お客様からご提供いただく個人情報の取扱いについて、ウェブサイトにてご案内しております。
https://www.jpbcruise.jp/privacy/

PEACE BOAT CRUISE VOYAGE 128

南極航路 アフリカ&南米コース

2027年12月 Voyage128

横浜発着108日間

2027.12.7(火) - 2028.3.23(木)

神戸発着108日間

2027.12.8(木) - 2028.3.24(金)



新時代をゆく、南半球への旅



地球誕生から46億年

私たちは、この星のことをどれほど知っているのでしょうか。
もっとも身近で、もっとも大切な存在でありながら、
そのすべてはいまだ解き明かされてはいません。
かつて「未知の南方大陸」とよばれ、1820年
によりやく人類の前に姿を現した南極。その大
地は、まるで時を閉じ込めたタイムカプセルのよ
うに、地球の歴史を抱えています。氷原からは46
億年前の太陽系誕生を物語る隕石が見つかり、氷
の奥深くには100万年前の空気が眠っている
といえます。南極を訪れることは、すなわち地球
の記憶にふれることなのです。

そして人類誕生から700万年。文明は興り、
数々の軌跡が積み重ねられてきました。アフリ
カの大地に刻まれた悠久の歴史、ハワイやタヒチ
の島々に息づく多彩な文化、チリやブラジルに残
る自由を求めた戦いの記憶、イースター島に眠る
古代文明―そのすべてを訪ね歩き、体感する壮
大な旅。そして旅の果てに待つ、氷と静寂に包ま
れた白銀の大陸―南極。
これが、南半球をめぐる南極航路、地球一周の船
旅です。

時空を超えた出会いに胸を震わせ、絶景と秘境に
心を奪われ、人類の多様な価値観にふれること
で、私たちは「人と地球」の可能性を新たに見つ
め直します。

さあ、一世一代の旅のはじまりです。

PEACE BOAT CRUISE

2027.12 Voyage128



01 THE ULTIMATE JOURNEY ANTARCTICA

P4-9

― 一世一代の行先 南極

02 GREAT VOYAGE SOUTH AMERICA

P10-15

リオデジャネイロ（ブラジル）
ブエノスアイレス（アルゼンチン）

03 DESTINATIONS & PORTS

P16-21

世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧

04 CRUISE SHIP & PEACE BOAT

P22-23

船室のご案内 / ピースボートクルーズ

南極

一世一代の行先



どこへでも旅ができるようになった現代にあっても、

南極は今なお“地球最後の秘境”として人びとをひきつけます。

ピースポートクルーズは、世界で唯一、世界一周の航海の中で南極を訪れる旅を実現しています。

2025年1月、その南極遊覧を成功へと導いたのは、

この地を知り尽くすエキスパート、スーザン・エイディさんでした。

彼女が語る「観光を超えた体験」の物語を、ここにお届けします。



スーザン・エイディ
Susan Adie

南極探査の第一人者。南極エクスペディションリーダーとして、1995年から国際組織IAATO（国際南極旅行業協会）とともに、南極を訪れる人びとの行動指針やガイドラインの策定に携わっている。長年にわたる南極探査は高く評価され、その功績から南極半島の西側には彼女の名前を冠した岬がある。2025年1月のピースポート世界一周クルーズにおける南極訪問時には、ナビゲーターとしてパシフィック・ワールド号に乗船。

To the Land That Belongs to No Nation

地球上で、どこの国でもない場所へ

南極はどこの国にも属さない、世界でもっとも厳格に保護された場所のひとつです。1991年に採択された南極条約と環境保護に関する議定書によって、南極では軍事利用や資源開発が禁じられ、環境保全が最優先事項となります。さらに、南極を訪問するすべての旅行会社と乗客は、厳格なルールやガイドラインを遵守する義務があり、ピースポートの南極航路もこうした国際的な基準を満たした上で実施されています。

ピースポートクルーズは、国際南極旅行業協会（IAATO）に加盟しています。「安全かつ環境に配慮した南極への私的な旅行の実践を提唱し、推進する」ことを目的とするこの組織に加盟して訪れるということは、参加される方がすでに「保護の担い手」としての第一歩を踏み出しているといえるでしょう。南極への訪問は、船長はもちろん、南極航路のベテランであるアイスマスター

や、私のようなエクスペディションリーダーを含めた、チーム体制で実施されます。皆さんの安全が第一ですが、「南極を訪問者から守ること」もまた、私たちの使命です。

ご存知の通り、南極は世界でもっとも繊細な生態系をもつ場所のひとつです。そのため、厳格な環境保護ルールが存在します。たとえば、外部からウイルスを持ち込まないために、南極遊覧中の船内では卵や鶏肉料理の提供が控えられます。また、夜間には船外へ光が漏れるのを防ぐために、船内のカーテンを締め切ります。こうした細やかな配慮と乗船者の協力によって、客船での遊覧は成功へと導かれるのです。一見すると小さなことのように思える取り組みも、手つかずの自然を守るうえで欠かせない要素であり、南極はその何倍もの魅力をもって私たちを迎えてくれるのです。

Antarctica : Where We Meet the Future of Earth

南極で地球の未来と出会う

南極には国家としての「大使」はいません。しかし、その美しさや脆弱性を伝えていく「大使」が必要だと感じています。地球上で南極を訪れた経験を持つ人は限られており、また個人の人生の中でも、滅多にない貴重な体験のひとつとなるでしょう。その類まれな経験を地球規模で生かすべく、IAATO(国際南極旅行業協会)では「南極アンバサダー(大使)制度」を設けています。

南極アンバサダーは、南極で得た感動や芽生えた思いを広く伝え、環境保全のために一人ひとりが具体的な行動を起こすことを目的としています。「水の使用量を減らす」「プラスチック製品の使用を控える」「ごみを減らす」など、自身ができることを今後も続けていくと宣言した乗船者に、IAATO公式アンバサダー証明書が授与されます。2025年1月のピースボートクルーズでの南極遊覧でも実施しましたが、ピースボートクルーズ参加者の関心と熱意の高さに驚かされました。さらに、証明書を手にした方々の中には、航海中に自主的に勉強会やディスカッションを企画し、仲間同士で環境問題について考える場を生み出す姿もありました。



IAATO

International Association of
Antarctica Tour Operators

国際南極旅行業協会

自然環境の保護と安全な旅行を促進するため、南極への民間旅行を管理し、南極条約システムと協力して活動しています。メンバー企業は、厳格なガイドラインを遵守し、持続可能な南極観光をめざしています。

世界には100社を超える南極クルーズの運航会社がありますが、ピースボートクルーズの参加者の「学ぶ姿勢」は特筆すべきものです。南極遊覧には私を含め、気候学、人類の南極探検史、野生動物などを研究する専門家や研究者が同行します。ピースボートクルーズでは、船が南極区間に入りレクチャーが始まると、講演会場はたちまち満席に。さらに、すべてのレクチャーに真剣に耳を傾けている乗客の姿は熱意にあふれ、とても印象的でした。また、言語面でのサポートにも素晴らしいものがありました。他社では、世界共通語である英語とプラス1言語の通訳が標準である中、ピースボートクルーズでは英語・日本語・中文・韓国語という4言語でレクチャーが行われ、国籍を問わず知識を共有できる環境が整えられていました。多国籍、そして多様な文化的背景をもつ人びとが乗船するピースボートならではの対応であり、一緒に乗船した専門家たちも同様に称賛していました。こうした参加者の反応や船内の対応こそが、ピースボートクルーズが唯一無二の存在として世界から高く評価されている理由だと実感しました。

ピースボートクルーズで南極を旅する皆さんと、再び一緒にできる日を心待ちにしています。私は30年以上の歳月を極地探検にささげ、地球でもっとも神秘的な場所のひとつ「南極」を生涯をかけて走破してきました。南極を皆さんとめぐるとき、私は「この旅の目的は単に“どこかへ行くこと”ではないのではないか」と感じます。知識と感動、経験をもとに「自分に何が出来るか」を真剣に考え、旅の最終日には環境保護のための具体的な目標を掲げて出航地へと戻っていく—そうした観光を超えた“未来のための旅”こそ、いま私たちに必要なものだと確信しています。



①南極遊覧の見どころのひとつ、「パラダイス湾」。氷河と雪山が静かな湾に映し出され、その幻想的な美しさは多くの人を惹きつけます。②氷と海が織りなす美しい景色の中、スーザンさんは操舵室で船をナビゲート。氷の世界に挑む真剣な表情と、ふとこぼれる柔らかな笑顔が、私たちが未知の世界へと導いてくれます。③壮大な山々と美しい氷の世界が広がる南極。澄み渡る空気の中、パシフィック・ワールド号はゆっくりと進んでいます。



①冷たい南極の風が頬をかすめる中、巨大な氷山が姿を現すと、どよめきと歓声が起こります。その圧倒的なスケールに、誰もが息のみまします。②目の前に広がる果てしない氷の大地。澄み渡る空と透き通る空気に抱かれ、非日常の景色が心に深い感動を刻みます。③自身の船室のバルコニーから、雄大な景色を眺める贅沢なひととき。④遊覧中、見どころに差し掛かると操舵室から船内アナウンスが入ります。その合図に導かれ、デッキへ。静寂の氷海に広がる神秘の光景を前に、胸の鼓動が高鳴ります。⑤地球が創り出した青と白の絶景を目に焼き付けようと、遊覧中は多くの人がデッキでの時間を楽しまします。⑥白い氷の上を歩くペンギンたち。小さな体で大海原を駆ける姿に、自然のたくましさを感じます。

オーバerlandツアー Overland Tour

南極の大地を踏みしめる

雪と氷に覆われた大地、氷山の芸術的な造形、そして凛と澄み切った空気を全身で受け止めることができる特別な上陸ツアーです。地球の果てで、日々、昨日の感動を超えていくような光景と出会う体験は、一生の宝物になるでしょう。



SDGs ユースプログラム

ピースボートクルーズは「持続可能な開発目標(SDGs)」の公式キャンペーン船として、世界各地の港でその重要性を発信しています。世界一周クルーズの各区間でSDGsに取り組む若手のリーダーたちを招待し、船内で海洋汚染や気候変動などの課題について意見交換などを行っています。南極は「平和と科学のための大陸」とよばれ、世界が一丸となり保護し、また気候変動を研究するうえで重要な場所です。この地に次世代のリーダーたちが訪れることは、重要な意味を持ちます。



国連海洋会議で報告

2025年6月、第3回国連海洋会議(UNOC3)がフランスとコスタリカの共催で開催され、各国首脳を含む約1万5,000人がニースに集結。海洋をめぐる課題と未来について議論を深める、史上最大規模の国際サミットが開催されました。

この会議に、NGOピースボートの代表も参加。国連の公式サイドイベント「ブルーゾーン」にて登壇し、海洋汚染や気候変動といった地球規模の課題に取り組む「SDGsユースプログラム」の活動を紹介しました。

2025年1月に成功をおさめた南極航路のクルーズについても報告し、高い評価をいただきました。

大自然の力強さを感じる轟音とともに流れ落ちる水量は圧巻で、滝壺に落ちた水は激しい霧となり、訪れる人びとの肌を心地よく撫でます。ときにはびしょ濡れになることもありますが、それもまた醍醐味です。この遊歩道に戻るとき、自然と訪れた人びとの顔には笑顔が浮かぶため、「スマイルロード」ともよばれています。



オーバーランドツアー・イグアスの滝（ブラジル側より）

Great Voyage

SOUTH AMERICA

圧倒的な自然美、スピリットあふれる人びと | 南アメリカの旅



オーバーランドツアー・イグアスの滝（アルゼンチン側より）

イグアスの滝は、アルゼンチンとブラジルにまたがる世界遺産ですが、滝の約80%はアルゼンチン側に位置しています。公園内には2,000種以上の植物が生い茂り、約450種の鳥類が生息しています。特に、気まぐれに姿を現すカラフルなくちばしを持つ「オオハシ」は注目的です。





世界遺産

サンバのリズムに乗って歩きたくなる キリスト像が見守る世界遺産の街



世界遺産

CARIOCA LANDSCAPES BETWEEN THE MOUNTAIN AND THE SEA
山と海との間のカリオカの景観群

特徴的な丸みを帯びた岩山で、リオを象徴する景観のひとつであるボン・ジ・アスカーの頂上からは、コルコバドの丘やコパカバーナ海岸、緑豊かな丘陵、そして高層ビルが立ち並ぶ世界遺産の街並みを一望できます。陽光を浴びて輝くパノラマビューは、エネルギーで躍動感にあふれ、訪れる人びとに忘れられない印象を残します。



色使いも素材も新鮮なブラジル・ファッション ショッピングの楽しみ

SHOPPING

心ときめくショッピング体験



ビーチサンダルメーカー「ハワイアナス」は、本場ブラジルでも大人気。中には、一人で6足、7足も持っている人もめずらしくなく、シーンに合わせて履き替えるのが当たり前なんだとか。世界最大級のスタジアムとして知られるマラカンの周辺には、サッカーチームのユニフォームやグッズなどを購入できるショップもあり、多くの人に人気です。



BRAZIL RIO DE JANEIRO

リオデジャネイロの楽しみ方

カリオカ（リオデジャネイロ生まれの人びと）は、自由と喜びを大切に生きています。街角で流れるサンバのリズムに心を躍らせ、ビーチで笑顔を交わしながら、自然と調和した生活を楽しんでいます。困っている人を見かけたら、つい声をかけてしまうおせっかい焼きな性格も、生粋のカリオカならではの。コルコバドの丘に立つ巨大なキリスト像は、彼らの幸せな日々を見守り、どんな困難にも立ち向かう力を与えています。この街にあふれる陽気なエネルギーこそが、その精神を象徴しているのです。

ブラジル人が愛してやまない 熱狂のサッカー

FOOTBALL CULTURE

ボールがつなぐ、人とコミュニティ



ブラジル人にとって、サッカーは単なるスポーツではなく、魂に刻まれた誇りです。フットボレーなどサッカーから派生したスポーツを日々楽しむことで、その情熱は日常に息づいています。セレソン（ブラジル代表）の試合の日には、スタジアムにサポーターが押し寄せ、サッカーが人びとの心をつないでいることを実感します。





ARGENTINA

BUENOS AIRES

ブエノスアイレスの楽しみ方

アルゼンチンがスペインから独立した1816年、首都ブエノスアイレスは草原と川しかない小さな町だったことから、「偉大なる田舎町」とよばれていました。その後、主にスペインやイタリアから海を越えて渡ってきた人びとによってブエノスアイレスは発展を続け、現在では世界有数の都市へと変貌を遂げました。欧州の薫りが色濃く漂う美しい街を歩けば、移民を中心に育まれたオリジナルな文化や芸術的なタンゴダンスに出会えるかもしれません。

ポルテーニョたちの夏の楽しみ方

LIFESTYLE
日常の風景



ブエノスアイレスの子どもの夏休みは、12月中旬から2月末までと長期間です。ポルテーニョ（ブエノスアイレス生まれのこと）たちはアサドを囲み、家族や友人とともにのんびりと過ごします。夏の夜は長く、例えばアイスクリーム屋さんは夜中の2時まで営業しています。食後のデザートとして250gのアイスを一人でべろりと食べるのも一般的です。



ピザの立ち食いがブエノスアイレス流

RESTAURANT
食の楽しみ



イタリアからの移民が多かったため、ピザはブエノスアイレスで非常に人気です。街角のピザ屋でスーツ姿の人びとがピザを頬張る光景は、さながら日本のそば屋のようです。そのスタイルは独自の進化を遂げ、ふわふわと厚みのある生地にたっぷりチーズが乗ったピザが特徴です。ふわふわに焼けるのが良い職人の証なんだそう。



ラ・プラタの名前の起源を追いかけて 銀細工とタンゴに出会う

SHOPPING
音も楽しいショッピング体験



ディフェンサ通り沿いには、多くのアンティークショップが軒を連ねています。ブエノスアイレスには銀細工の工房も多く、かつて「ラ・プラタ（銀）」とよばれたこの地の面影を感じさせます。また、移民たちの郷愁を思わせるタンゴのメロディーが、街角で流れるのを耳にすることもあります。



「世界のいま」を感じる 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧

香港
多彩なグルメと最先端の街並み、夜景、歴史と自然が調和する心躍る都市



**ブラジル
リオデジャネイロ**
地球の真裏で出会う類まれな景観。サンパウロ街くぐりでエネルギー溢る文化を感じて



**チリ
プエルトモン**
火山や湖が織りなす自然豊かな風景が魅力。新鮮なシーフード料理も楽しみ



**チリ
イースター島**
“孤高の守り神”モアイ像が迎える神秘的島。不思議で奥深い文化にふれるひととき



世界一周クルーズをもっと面白く
オーバーランドツアー

**自然遺産
ビクトリアの滝**
ジンバブエ
世界三大瀑布のひとつ。その迫力あふれる姿と豊かな生態系から世界遺産に



**自然遺産
ナミブ砂漠**
ナミビア
世界最古の砂漠。刻々と表情を変えていく砂丘列の美しさは圧巻



**自然遺産
ロス・グラシアス氷河国立公園**
アルゼンチン
南極、グリーンランドに次ぐ面積を持つ氷河地帯。ダイナミックな光景を訪ねて



シンガポール
温まり合う文化が生み出す幸せな味わい。五感すべてで感じる多国籍グルメの数々



**ウルグアイ
モンテビデオ**
炭火で焼き上げる牛肉ステーキは絶品！街中のメルカド(市場)で、本場の味に舌鼓を



**チリ
バルパライソ**
旅人を魅了するカラフルな家屋とストリートアート、世界遺産の丘の街



**タヒチ
パペーテ**
芸術家を魅了した色彩あふれる南洋の楽園。絵になる光景を求めてショートトリップ



**モーリシャス
ポートルイス**
豊かな自然が魅せる絵画のような光景。南国の風が誘う遠かなる楽園への旅



**アルゼンチン
ブエノスアイレス**
洗練された街並みに、哀愁漂うタンゴのリズム。南米のクラシカルタウンで心躍らせて



**ペルー
カヤオ**
マチュピチュ遺跡やナスカの地上絵などの世界遺産を擁するペルーの海の玄関口



**サモア
アピア**
南太平洋の文化と自然が融合する港町で豊かな自然とあたたかい人びとに出会う



**南アフリカ
ポートエリザベス**
果てしない地平線と、躍動する命を目に焼きつける。自然保護区での特別なサファリ体験



**アルゼンチン
ウシュアアイ**
雪を冠した急峻な山々やバタゴニアの氷河など、美しい景観が広がる世界最南端の地



**南アフリカ
ケープタウン**
冒険者たちがめざした東西航路の要所。新たな時代を切り拓いた“希望の岬”



南極遊覧
壮大な山々と美しい氷の世界が広がる白い大陸、南極。青と白の世界へ



**ナミビア
ウォルビスベイ**
砂地と荒野が生む異形のランドスケープ。世界最古の砂漠に覆われたナミビアの大地



**チリ
プンタアレナス**
マゼラン海峡を望む港町で、壮大な自然の風景と街歩きを楽しむ




パシフィック・ワールド号でゆくピースボート地球一周の船旅 2027年12月 Voyage128

横浜発着108日間 2027.12.7(水) - 2028.3.23(木)
神戸発着108日間 2027.12.8(木) - 2028.3.24(金)

日程	出航	寄港地	
12.7 火	出航 午前	横浜	
12.8 水	出航 午後	神戸	
12.12 日	入港 午後 出港 深夜	香港	
12.17 金	入港 朝 出港 深夜	シンガポール	
12.27 月	入港 朝 出港 夜	ポートルイス	モーリシャス
1.2 日	入港 早朝	ポートエリザベス	南アフリカ
1.3 月	出港 夜		
1.5 水	入港 朝 出港 夜	ケープタウン	南アフリカ
1.8 土	入港 朝 出港 夜	ウォルビスベイ	ナミビア
1.17 月	入港 午前 出港 夜	リオデジャネイロ	ブラジル
1.21 金	入港 朝 出港 午後	モンテビデオ	ウルグアイ
1.22 土	入港 午前 出港 深夜	ブエノスアイレス	アルゼンチン
1.27 木	入港 午前 出港 夜	ウシュアアイ	アルゼンチン

南極遊覧			
2.4 金	入港 朝 出港 夜	プンタアレナス	チリ
2.8 火	入港 朝 出港 夜	プエルトモン	チリ
2.10 木	入港 午後	バルパライソ	チリ
2.11 金	出港 夜		
2.15 火	入港 朝		
2.16 水	停泊		
2.17 木	停泊	カヤオ	ペルー
2.18 金	出港 夜		
2.24 木	離泊 午前 発 夜	イースター島	チリ
3.5 日	入港 朝 出港 深夜	パペーテ	タヒチ
3.11 土	入港 朝 出港 夜	アピア	サモア
3.23 木	離泊 朝	横浜	
3.24 金	離泊 午後	神戸	

※訪問地や航路は、天候や海の状態による船長判断、その他の理由により変更する場合があります。

★ここははずせない！注目の寄港地をご紹介★

世界遺産マチュピチュ遺跡やナスカの地上絵で知られる古代文明の宝庫・ペルー。イースター島、タヒチなど独自の文化圏を築くポリネシアの島々。まだまだお伝えしきれない魅力あふれる旅の情報は、二次元コードからチェック！

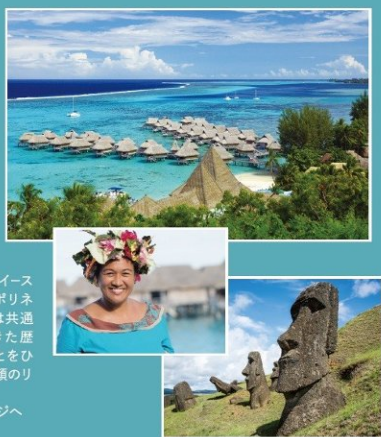
Callao
カヤオ



いまなお多くの謎に包まれるマチュピチュはもちろん、そのベースとなった文明そのものも私たちに魅了します。さあ、たくさんの“不思議”が待つペルーの地へ。▶詳しくは18-19ページへ

South Pacific

南太平洋



南太平洋に点在するイースター島、タヒチなどポリネシアの島々は、じつは共通の文化圏を築いてきた歴史をもちます。人びとをひきつけてやまない素晴らしいリゾートと出逢いに。▶詳しくは20-21ページへ

ご確認事項

- 天候や現地事情の影響により、入出港日時の変更や抜港になる場合がございます。
- 本船が沖合に停泊し、テンダー・ポートなどを使用して上陸する寄港地では、気象条件によっては上陸できないこともございます。
- この旅行は地球の遠隔地への航海であり、天災地変、政治状況の悪化、現地官憲の命令など、当社が関与し得ない事由が生じた場合、乗船客の安全を第一と考え、また航海の安全を考慮し、お客様に事前に、あるいは緊急の場合は変更後にお知らせし、旅行日程、旅行サービスの内容を変更する場合がございます。
- 航海日程は船長や船会社の判断によっても変更される場合があります。
- 上記のような不可抗力による変更の場合でも、払い戻しは一切ございませんので、予めご了承ください。
- 本パンフレット記載の寄港地に関する案内文および写真の一部は、オーバーランドツアー含むオプションツアー(有料)に参加された場合にお楽しみいただける内容を含んでおります。
- オーバーランドツアーは寄港地で一時下船して別の港で再合流するツアーです。
- 本パンフレットに掲載の写真は、お客様にピースボートクルーズのイメージをお伝えするものであり、過去に使用した別の乗船や撮影された写真も含んでおります。また、季節に関わりなく全て旅のイメージです。
- 横浜港乗船の方は神戸港にて、また神戸港乗船の方は横浜港にて一時下船はできません。
- 本船の航路には、南極大陸への上陸は含まれません。南極大陸への上陸は後日ご案内するオーバーランドツアーにご参加ください。
- イースター島では原則自由行動はできません。後日ご案内するオプションツアーにご参加ください。

0:00~	4:00~	6:00~	8:00~	12:00~	18:00~	23:00~
深夜	早朝	朝	午前	午後	夜	深夜

ペルーの絶景と 出会う

Landscapes Beyond Imagination

かつて古代文明が息づき、いまなお発掘が進むたびに人類の歴史に新たな発見をもたらすペルー。旅のハイライトでもある“空中都市”マチュピチュなど、ペルーが抱く神秘とロマンが旅人たちを魅了します。



① 天空に浮かぶマチュピチュ遺跡 ② 世界中から旅人が集う ③ 訪れたからこそ見える素晴らしい景色 ④ アンデスの風と暮らすアルパカ ⑤ ペルーの歴史を学べるラルコ博物館 / リマ ⑥ 色鮮やかなお土産の数々 / リマ ⑦ 歴史と文化の中心、アルマス広場 / クスコ ⑧ インカ文明の技術力の象徴、12角の石 / クスコ

秘めたる史実を宿した神秘の遺跡 世界中の旅人たちがめざすマチュピチュの地へ

人里はなれた山奥にひっそりと佇む、世界複合遺産・マチュピチュ遺跡。インカ帝国崩壊後も、その地理的要因ゆえに破壊をまぬがれ、雲がかかる険しい尾根の狭間で当時のままの姿を保ってきました。最近の研究では、15世紀頃にインカ帝国第9代皇帝によって建造されたことが解明されましたが、発見から100年以上たった今も未だに多くの謎が残されたまま。車輪や滑車がなかったインカ帝国時代において、これほどの高所にどのように巨石を運搬したのか。しかも彼らの文明は“文字”をもたず、歴史を伝える言葉はこの世に残っていません。しかしながら、遺跡の随所に見られる精巧な建築技術や、自然の摂理を取り入れた集落跡は、非常に高度な文明がたしかに在ったこ

との証です。歴史の扉は閉ざされたまま—永遠に解き明かされることのない謎が、なおのこと私たちのロマンを誘います。そしてペルーの見どころは、マチュピチュだけにとどまりません。地上絵で知られるナスカや、インカ帝国時代の首都であったクスコなど、ペルーは多数の世界遺産が顔を揃える魅惑の地です。クスコの街にもマチュピチュと同様に、高度な建造技術が光る石組みの通りがあります。寸分の隙間もなくびったりと積まれた石の中には、実に12もの角をもつ不思議な石も。単純に四角の石を積みば良いものを、あえて12角の石を用いて石組みをつかった精巧な技術—時代を超えて、古の人びとの崇高な美意識を感じずにはいられません。

船上に連なるペルーの世界



カラフルなアンデス土産



アンデス音楽を楽しむ



洋上で出会う、ペルーの味

クルーズのメリットは、寄港前から訪れる国の文化や歴史にふれられること。ペルー国内外で活躍するアーティストを招いて、文化紹介を交えながらアンデス音楽のバンド演奏を楽しむなど、一足先に現地の空気を体感する多彩なイベントが催されています。



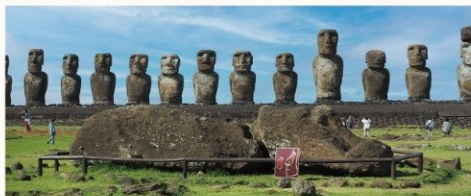
絶海の孤島が 魅せる風景

A Vision from a Remote Island

周囲約2,000kmに人の住む島はなく、外界から隔絶されたように佇む島—現地の人が「ラパ・ヌイ(大きな島)」とよぶイースター島には約1,000体の巨大なモアイ像が点在し、謎を秘めたまま遥か彼方を見つめ続けています。

火山島であるイースター島。島の海岸線は断崖絶壁か岩場に囲まれているため、沖合でテnderポートへ乗り換えて上陸します。深度のある海は独自の群青色を生み出し、海を渡る私たちの目の前に、「いつか見たい」と憧れ続けたモアイ像のシルエットが映し出される—絶海の孤島に待つ絶景を前に、あふれ出る好奇心はとどまることを知りません。

チリ イースター島



ラノ・ララク



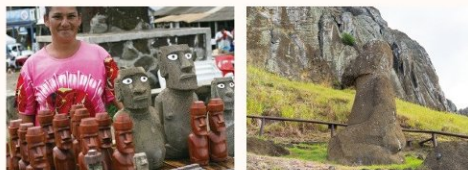
海岸から内陸を見渡すと、緑に覆われたなだらかな丘の上に、たくさんのモアイ像が奇妙な姿で行んでいるのが目にとまります。ここはラノ・ララクとよばれる「モアイ製造工場跡地」。何らかの理由で、つくることや運ぶことを放棄されたモアイたち。横たわり、半身が埋まるなどの姿のまま大地と一体化し、虚空を見つめたまま静かに時を刻み続けています。



多彩な モアイたち



モアイ像といっても、その姿は実にさまざま。目がはめ込まれたものや、「ブカオ」とよばれる帽子や髪の毛を模した岩を頭に乘せたもの、島で唯一の正座したものなど、ユニークなフォルムをしたモアイも。お土産もモアイ一色で、置物からアクセサリーまで、島の人びとがつくった“世界でここだけ”の逸品と出会えるでしょう。



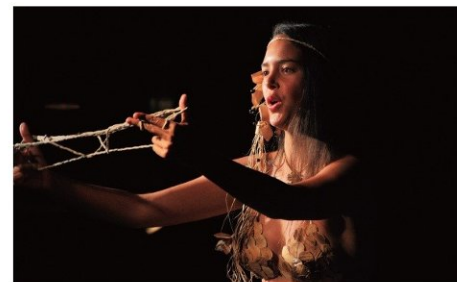
オロンゴ岬



島の南西にあるオロンゴ岬からは、遮るものない紺碧の海が広がります。かつてイースター島では、この岬から断崖を降りて海を泳いで沖合の島へと渡り、一番早く海鳥の卵を持ち帰ることで翌年の首長を決めたといわれる「鳥人儀礼」が行われていました。岬の先端の岩には鳥の頭をもつ鳥人のレリーフが残され、今なお神聖で神秘的な雰囲気を漂わせています。



伝統文化を洋上で体験



唯一無二の巨石文化が紡がれたイースター島は、モアイの他にも独自の文字や言語、島に伝わる伝統舞踊など、さまざまな文化的要素を守り継いでいます。船上でも伝統的ダンスのパフォーマンスステージなどが催され、学びと体験は寄港地のみにとどまらず、多彩なイベントをとおしてイースター島の豊かさにふれることができます。

Why Travel by Cruise Ship?

「世界一周」という特別な旅が、快適なものであるために

ゆったりと時が流れる船旅では、船上で過ごす毎日そのものが旅のハイライトになります。海風を感じながら読書を楽しみ、海を眺めつつ味わう食事は、心身を解き放つひとときです。長期旅行で煩雑になりがちな荷物移動も、クルーズなら出航後に船室で衣装を解けば、下船の直前までパッキングは不要。「移動」と「リゾート滞在」のいいところどりができるのが、大きな魅力です。



多様なニーズに合わせて選べる船室の数々



Pair Owner's Suite ペアオーナーズスイート



Pair Junior Suite
ペアジュニアスイート

Pair Premium Suite
ペアプレミアムスイート



ペアバルコニー I



シングルスタンダードインサイド II



セミシングルアウトサイド I



フレンドリースタンダードインサイド II

Why Travel with PEACE BOAT?

「世界一周」という特別な旅が、サステナブルなものであるために

40年以上にわたり船旅を企画し、クルーズを成功させてきたピースボートクルーズは、これまでに培った経験を生かし、よりエシカル(倫理的)でサステナブルな旅を追求しています。地球環境への配慮はもちろん、寄港地で私たちを迎えてくれる国々や人びととの相互理解を深め、旅を通じてともに持続可能な未来を築くことをめざしています。



洋上レストランで、持続可能な水産物を提供

持続可能な漁業で漁獲され適切に管理されたMSC認証の水産物、認証済み養殖場から供給されたASC認証の水産物を積極的に取り入れ、持続可能な水産業への取り組みを選択することを心がけています。

ノーベル平和センターと提携した常設展を開催

2025年4月、ピースボートとノルウェーのノーベル平和センターの提携により、ノーベル平和賞授賞式に合わせて更新される「ノーベル平和賞企画展」がパンフィック・ワールド号に常設されています。



SDGs公式キャンペーン船として認定

国連とパートナーシップを結び、2015年に決議された「持続可能な開発のための目標(SDGs)」の公式キャンペーン船として認定され、船内や訪れる国々でSDGsに関連する取り組みを実施しています。



国連海洋会議を本船 パシフィック・ワールド号で開催

国連本部があるニューヨーク寄港時は船上で国連会議を開催。ここでの交流や意見交換は国連に反映され、環境保護の取り組みや議論の活性化につながり、若い世代の声を届ける役割も果たします。



交流を続けながら、世界各地へ支援物資を

たくさんの物を運べるという大型客船の特性を活かし、寄港地のニーズに合わせて支援物資を届けています。届ける物資は楽器や文房具、衣料品、スポーツ用品、衛生用品、車など、多岐にわたります。



各界の専門家が地球一周の旅をナビゲート

遠隔地への旅を通して知識を深め、現実的な社会問題や環境問題への意識を高めるきっかけとなり、それらを「自分ごと」として捉える視点や思考を育みます。